

大学院共通科目の新規開設

科目名	国際性養成科目群・シリーズ講義: 「地球規模課題と国際社会：〇〇〇〇〇」		
英語科目名	Lecture series for Retaining Internationalized Characters: [Global Issues and Global society: (subtitle of individual lecture)]		
担当教員	白岩 善博（総合コーディネーター）	所属・職名	教育推進部
科目群名	国際性養成科目群	授業形態	講義・オムニバス講義（各科目において設定する）
単位数	各1単位	使用言語	英語
実施モジュール	集中講義（各科目において設定する）	曜時限	集中講義（各科目において設定する）
開設組織 （研究科・専攻等）	各科目の「科目コーディネーター」が所属する教育組織		
<p>科目概要（本科目シリーズの概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合コーディネーターを配置して、統一テーマ「地球規模課題と国際社会」を掲げ、現在国際社会が直面する地球規模の問題の理解を大学院生に求める機会とする授業を志向する。 ・ 国連が提示しているSDGs (Sustainable Developmental Goals)を意識した構成を志向する。 ・ 統一テーマの下に、筑波大学の全学的な英知を結集する形で、国際的な質の高い研究を展開している教員を選び、その最先端の研究に基づいたトップクラスの知・智を提供する。 ・ 総合コーディネーターの主導のもとに、各科目（副題を設定して、個別課題を取り扱う）を運営する「科目コーディネーター」を設定して、相互の議論の基に質の高い、講義を構築する。 ・ 外国人教員や研究者の来日に合わせて、著名な学者に講義をするなど、積極的なコーディネーションを図る。 ・ 筑波大学が留学生や外国人教員数の向上を目標・計画に掲げる中で、多国籍環境の中で日本人学生や留学生の国際感覚を磨き、国際社会の理解を進め、グローバル人材として活躍する大学院生の育成を果たす一助とする。 ・ 留学生と日本人学生など、多国籍環境における学びから得られる資質の向上を目指す。 <p>「科目コーディネーターの役割」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目（副題を設定し、課題を明確化する）を総合コーディネーターと連携して運営する ・ 一科目（一単位分）の実際の授業は、1名もしくはオムニバス形式により複数の教員により実施することを基本とする。 			

- ・ TA を配置し講義を補佐させると共に、当該 TA に対する教育経験の向上を図るものとする。
- ・ 非常勤講師の配置、要求、認定審査を所属組織で実施する際の責任者となり、「開設研究科」として開設するよう所属研究科・専攻・学位プログラムなどとの調整役を担う。

「授業形式」

- ・ 多国籍、多様な講師陣を迎え、当該問題の学術的アプローチの紹介、講師陣、受講者との議論により国際社会が抱える地球規模課題について学ぶ形式とする。
- ・ 受講生に対して、事前学習の課題を提示し、単なる講義形式ではなく、受講生の事前学習や多様な意見に基づく「パネル討論」などの形式を導入して進めていく。
- ・ 講師と受講生、受講生同士のディベートによる授業形態を推奨する。
- ・ 受講者数は 1 科目あたり 30 人を上限とする（大学院共通科目の基本方針）。超過する場合は総合コーディネーターと協議すること。

「アウトプット」

- ・ 各講義において高い評価を得た受講生に対しては、「国際研究プロジェクト」・「国際インターンシップ」を受講し、海外渡航経験を積むことを推奨する。但、渡航支援の採択を確約するものではない。また、応募や実施の規定については、別途公表される「国際研究プロジェクト」・「国際インターンシップ」の「応募要領」に従うものとする。

「開設科目」

[平成 29 年度開講予定科目]

(1) 「地球規模課題と国際社会：食料問題」

コーディネーター：江面 浩 教授（生命環境系・つくば機能植物イノベーション研究センター長）・有泉 亨 准教授（生命環境系）・福田直也 准教授（生命環境系）・石賀康博 助教（生命環境系）

(2) 「地球規模課題と国際社会：海洋環境変動と生命」

コーディネーター：白岩善博特命教授・名誉教授（教育推進部）・稲葉一男教授（生命環境系・下田臨海実験センター長）

(3) 「地球規模課題と国際社会：社会脳」

コーディネーター：小川 園子教授（人間系・感性認知脳科学専攻長）

[平成 30 年度開講予定科目]

(1) 「地球規模課題と国際社会：感染症・保健医療問題」

コーディネーター：我妻ゆき子教授（医学医療系）

(2) 「地球規模課題と国際社会：社会問題」

コーディネーター：渡邊 和男 教授（生命環境系）

(3) 「地球規模課題と国際社会：環境汚染と健康影響」

コーディネーター：熊谷嘉人教授（医学医療系・グローバルイノベーション学位プログラム準備室長）（申請認可後（予定）：「国際連携食料健康科学専攻」）

(4) 「地球規模課題と国際社会：環境・エネルギー」

コーディネーター：金谷和至教授（数理工学系・数理工学融合科学センター長）・鈴木博章教授（数理工学系・数理工学研究科長）

[既開設科目で受講を推奨する科目]（本科目シリーズ関連）

(1) コーディネーター：吉田正人教授（世界遺産専攻長・世界文化遺産学専攻長・自然保護寄附講座）（H29 年度開設）

・ 01EC552 (02JZ012) International Conventions for Environment

Masahiko Horie, Ministry of Foreign Affairs; Ryo Kosaka, Tohoku University;

2017 年 7 月 7 日-8 日

・ 01EC548 (02JZ013) Role of International Organizations and NGOs

Yasufumi Hibi, Conservation International; 2017 年 7 月 28 日-29 日

・ 01EC551 (02JZ016) Environment and Sustainability

Jordi Treserras, University of Barcelona; 2017 年 10 月 27 日-28 日

・ 01EC549 (02JZ014) International Cooperation for Environment

Kazunobu Suzuki, JICA; 2017 年 12 月 9 日-10 日

・ 01EC550 (02JZ015) Citizen's Participation for Environment

Patricia Alberto, Head, World Heritage Centre, Banberg, Germany;

2018 年 1 月 18 日-19 日

開設理由（本科目シリーズ科目の開設理由）

筑波大学大学院共通科目は、東京大学や大阪大学、九州大学、北海道大学などの大学院共通授業科目との比較においても独自の高い評価を得てきた。現在の年間受講者数は 2,000 名を超える状況となり、広く学内の研究科から授業提供を求め、受講生も多様な専門分野から集まっている。しかし、このような全学的な教育プログラムは、筑波大学が進める教育改革にも対応する内容とその質の保証が重要で、状況の変化に対応する進化と適応が重要である。

筑波大学大学院共通科目は、既に 10 年の歴史を経ている。本大学院共通科目は、当初、委員会が主体となって授業科目を企画し、各教員個人の協力を依頼する形式で多くの科目が開設さ

れ、その後学内の教育組織や支援組織が提供する科目を加えて充実を図ってきた。

しかしながら、大学院生の「国際性を養成する科目」（国際性養成科目群）の科目数が現在 3 科目にまで減少しており、国、文科省・中教審、大学や社会が指向するグローバル化に対応する人材育成に十分な対応ができないことが危惧される。

この状況を打開するための新たな試みとして、「総合コーディネーターが企画する統一テーマ」のもとに、筑波大学の全学的な英知を結集する形での新規科目開設を行うこととしたものである。

本科目シリーズによって、グローバル社会が進む社会にこれから羽ばたいていく大学院生に対して、僅かでも、国際社会が抱える問題とその解決に向けた活動・学術研究について強く意識させる意図の下に、地球規模課題の解決に関わる多様な国際社会の活動に関する内容の授業科目の開設を企画することは意義深いものと考えられる。